

【札幌市交通局情報提供】車椅子使用者が単独乗降しやすい地下鉄車両とホームの段差・隙間の縮小について

1 背景

東京オリパラ競技大会を契機として真の共生社会の実現に向けて、車椅子利用者が駅員等の介助なしに列車に単独乗降しやすい環境の整備を目指すとして、2019年（令和元年）11月に「バリアフリー整備ガイドライン」が改定され、ホームと車両の段差及び隙間について基準とすべき目安値（段差3cm、隙間7cm以下（曲線部隙間は出来る限り小さく））が示された。

2 現状・課題

○本市地下鉄はゴムタイヤ採用により、構造上の特性から鉄輪に比べ車体の揺れが大きいなどの課題があり、ガイドライン目安値を満たしているホーム乗降口は地下鉄3線で1箇所もない状況となっており、現状は車椅子利用者に対しては列車への渡し板により対応している。

○上記の課題から当初は目安値達成が困難と見込んでいたが、調査検討業務において車両の動揺量の数値等を精査した結果、列車乗降口にスロープタイルー一体型くし状ゴムを設置しホーム嵩上げすることで、概ねガイドライン目安値を達成できることとなった。

3 方針

全駅の車いすスペース直近の乗降口254箇所に設置する。

各線の総設置箇所数は下記のとおり。

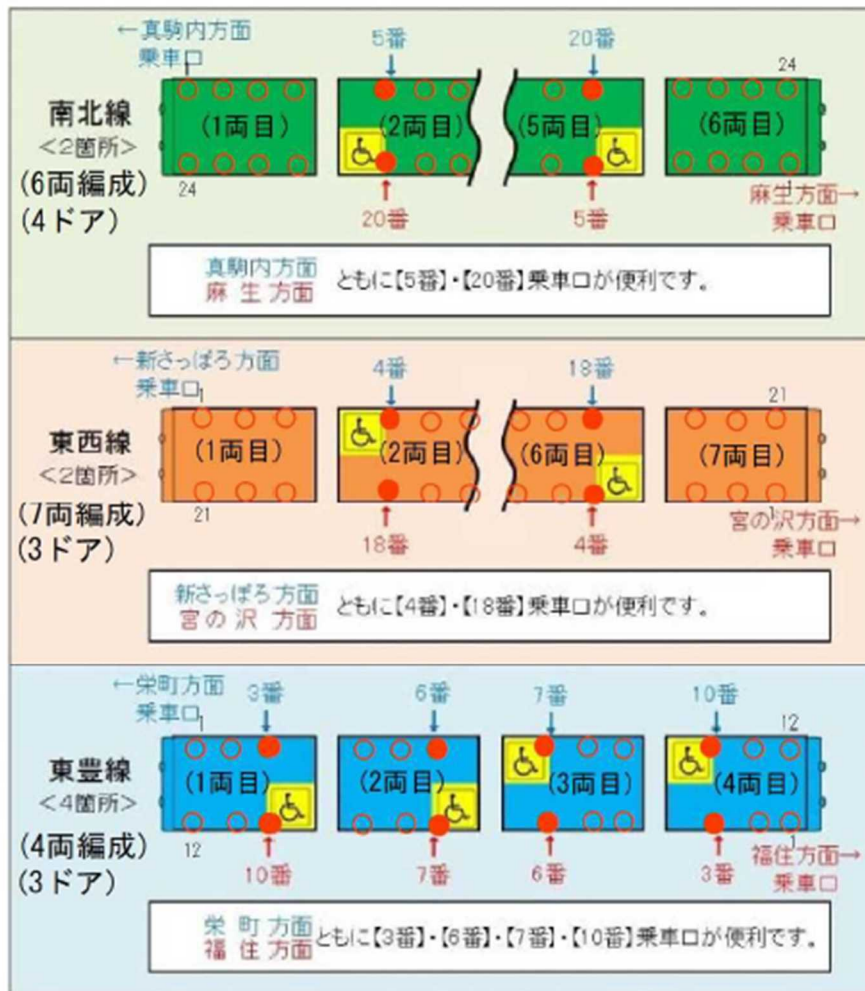
南北線：1駅4箇所×16駅＝64箇所

東西線：1駅4箇所×19駅＝78箇所

※南郷7丁目駅4番ホームの2箇所を含む

東豊線：1駅8箇所×14駅＝112箇所

※参考：設置位置図



4 事業スケジュール（予定）

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
事業内容	実施設計 (東豊線4駅)	工事 (東豊線4駅) 実施設計24駅 (南北線大通駅ほか15駅、東西線大通駅ほか5駅、東豊線大通駅ほか1駅)	工事24駅 (南北線大通駅ほか15駅、東西線大通駅ほか5駅、東豊線大通駅ほか1駅) 実施設計21駅 (東西線宮の沢駅ほか12駅、東豊線東区役所前駅ほか7駅)	工事21駅 (東西線宮の沢駅ほか12駅、東豊線東区役所前駅ほか7駅)

5 設置写真（環状通東駅）

◎設置前



◎設置後

